

年代

古代

江戸

昭和初期

40年代

50年代

背景

愛媛柑橘品種の変遷

日本唯一の自生柑橘 **たちばな**



柑橘の伝来

垂仁天皇の命を受け、「非時香菓」を**田道間守**が持ち帰った(日本書紀)ものが柑橘伝来の始まり。以後、キンカンやコウジ等が薬用として伝来。

柑橘栽培の始まり

中国から導入された小ミカンが熊本から和歌山に広がり、**キシュウミカン**が一大産業となった。

温州ミカン栽培の始まり

温州は、400~500年前に鹿児島県長島町で発生。種なし(最初は子孫繁栄の観点から嫌われた)で食べやすく、美味しいことから栽培が始まる。

愛媛では1789年吉田町立間の加賀山平次郎氏が土佐より導入したことを機に栽培が本格化。

夏柑、ネーブルの台頭

昭和初期には、山口県で発見された**夏柑**やアメリカから導入された**ネーブル**が広く栽培されてきた。

太平洋戦争勃発

米の食糧増産運動、資材や労力の不足により**ミカン園が荒廃**。

戦後の復興期

高度経済成長の波に乗り、ミカン栽培が飛躍的な伸びを見せ、**復興ブーム**による消費増大・高値。

ミカン価格の暴落

昭和40年代半ば頃から、過剰生産(最高3,665千t:昭和50年)により価格が**暴落**。

海外品種の導入

昭和30年 アメリカより **カラ** 導入。

昭和44年より ミカン暴落を受け、愛媛青果連が品種構成の改善を目的として、9か国より**海外の品種**を積極的に導入。

昭和48年 **イタリアよりタロッコ**導入 露地での越冬栽培等のため増加しない。

昭和52年 **アメリカよりアンコール**導入 施設栽培による産地化推進

平成20年代

温暖化と機能性成分含有で見直される

減反政策による温州ミカンの生産調整始まる

昭和54年から「温州ミカン園転換促進事業」、昭和59年からは「かんきつ産地再編整備特別対策事業」により、温州ミカンの栽培面積は減少し、これに代わって**伊予柑**が増加した。

昭和46年のグレープフルーツの輸入自由化に伴い、夏柑減少。

昭和54年**清見**の登録 優良な交雑品種の誕生が始まる。



鹿児島県長島町



キシュウミカン



みかん研に建立された記念碑



愛媛みかん原木の3代目



夏柑の原木(山口県長門市)